

先進事例 紹介

平日昼間の地域防災力を強化

宗像市消防団 市役所・県総合庁舎合同分団 設立

福岡県 宗像市消防団

宗像市では、月～金曜日の昼間の消防団員不足を解消するため、市と福岡県の職員で構成する全国初の機能別分団を設立しました。市職員12人、県職員12人、宗像市社会福祉協議会職員1名の25人で構成しており、うち女性は7人となっています。



規律訓練

宗像市は総面積119.91平方キロメートル、総人口96,734人（平成27年2月末）。福岡市と北九州市の両政令指定都市の間に位置し、玄界灘を望む豊かな自然が残る「学術文化都市」です。現在、消防団員数は実人数609名。（定員609名）。ただし、被雇用率は年々増加し、平成26年度は54.8%となっています。実際に、夜間の出動は団員を参集できるのですが、平日昼間の出動については、人手不足が否めない状況となっていました。

そのため、平成26年4月より消防団長、副団長、消防団を所管する総務部生活安全課で、平日昼間の地域防災力を強化できないか検討を始めました。

市内在住の職員は地元の消防団に所属（任意）していますが、市外在住者は、消防団に所属していないことに着目し、市外在住の市職員で構成する平日昼間限定の機能別分団を設立する方針を打ち出しました。ただし、全員が消防団初心者では機能しないため、消防団OBの市職員を組み込むこととしました。消防車両については、

他の分団が使用していたCD-1型ポンプ車を譲り受けることとしました。

その後、福岡県総務部防災危機管理局消防防災指導課から、市が進めている機能別分団を、宗像市役所に隣接する福岡県総合庁舎の職員と合同で設立できないかと相談がありました。

組織の違う職員の集団でうまく連携をとれるのか？迅速な出動体制が確立できるのか？不安要素はありましたが、団員を確保することが先決とし、市役所・県総合庁舎合同分団を設立することで決定しました。

団員の確保については、8月から11月にかけて、4回の説明会を実施。また、個別に入団勧誘を行い、平成26年12月までに25人の団員を確保することが出来ました。

体制が整い、平成27年1月5日、結団式を開催しました。消防団長から辞令交付。市長及び県総務部防災危機管理局長のあいさつ。団員の決意表明を行いました。



結団式

県職員の中川いずみ氏から「宗像市職員との連携を図りながら、市民の生命・財産を守り、安心安全のまちづくりのために、地域貢献する活動を積極的にしていきたいと思います」と力強い決意表明がありました。

平成27年1月12日の宗像地区消防出初式で披露した後、1月15日から宗像地区消防本部で訓練を開始しました。1月は規律訓練。2月は、ホースの取扱い訓練。3月は、ポンプ車を使用した放水訓練を実施しました。訓練を重ねることで、市職員と県職員のコミュニケーションをとることができていると感じます。



出初式



放水訓練

平成27年4月からは、平日昼間の火災及び行方不明者捜索に出動します。今後の宗像市消防団 市役所・県総合庁舎合同分団の活躍に期待します。



消防本部での講義

○団員のコメント

井上康幸氏（分団長）市職員

地域の消防団を26年務めた経験を生かし、分団員の技術向上のため、努力します。全国初の市・県合同の機能別分団となるので、模範になれるよう、一致団結して頑張ります。出動の機会がないのが一番ですが、火事などが発生した時は素早く対応できるよう、今後訓練を重ねていきます。

橋詰さくら氏（団員）社協職員

何か人のためにできないかなと思っていたとき、この機能別分団の話をもらい、入団を決意しました。ここでは、女性の分団員も消火活動などに当たるので、男性と比べるとやはり体力面で不安があります。でも足を引っ張らないよう責任をもって頑張ります。